

もっと詳しく知りたい方のために

イタリア学の勧め

イタリア(紀元前 509 年)は、ギリシャ(紀元前 508 年)と並んで、世界最古の民主主義発祥の地です。また、ルネサンス発祥の地でもあり、ダンテやレオナルド、ミケランジェロ、ラッファエッロなど綺羅星の如き天才を数多く生み出してきました。また、イタリアはジョルダノ・ブルーノやガリレオ・ガリレイに見るように近代科学を生み出した地です。こうしたイタリアから、その智慧や考え方を学び、参考にすることが日本をより豊かにする一手段と考えているのがイタリア学会です。今回の学術会議の任命拒否問題にも、イタリア的な視点から光を当てることで、多くの知見が得られます。是非、皆さんにも、参考にして頂ければと思います。

学術会議の任命拒否問題は問題ではない？

毎日新聞と社会調査研究センターの世論調査によると、学術会議問題について「問題だとは思わない」との回答が 44%に上り、朝日新聞の世論調査でも学術会議の任命拒否は「妥当だ」という人が 31%もいました。この問題が解からないという人も含めれば、国民の過半数が「何が問題なのかが解らない」状態にあると言ってよいでしょう。「所詮、学者の世界の話だから、自分には関係ない」と思っているようです。任命拒否の問題が、なぜ《学問の自由》や《民主主義》の問題とリンクするのか解らないため、多くの国民が次のような誤解を抱えています。

誤解① 国からお金をもらっている以上、国に従うのは当たり前だ。

誤解② 学術会議は既得権益の団体であり、政治家がメスを入れるのは当たり前だ。

誤解③ 学者の分際で、首相に物申すとは何事だ。

誤解④ 学術会議の会員になれなくても、研究は自由にできる。「直ちに学問の自由の侵害には繋がらない」(加藤勝信官房長官)

ファクトチェック 誤解②学術会議は既得権益の団体であり、政治家がメスを入れるのは当たり前だ。

まず、これまで自民党系の人々から流されたフェイクニュースをファクトチェックしておきましょう。事実を根底に置き、事実を根拠にして議論するのが文明人の証だからです。

誤情報①「(学術会議は)答申や提言をほとんど出していない」(下村・元文科省大臣)

この 1 年では 80 件超の提言・報告を公表しています。答申は政府が諮問しないと出せないのですから、政府自身が諮問を怠ってきたのであり、自分の責任を他者に転嫁しています(悪の指標の一つが《責任転嫁》です)。では、なぜ政府は学術会議に諮問しないのでしょうか。自分たちの法案に都合のいいデータを揃えるため、学術会議の代わりに、お抱えの「審議会等」を個別に作り、そこに御用学者を集めて諮問するようになったからです。辺野古移設しかり、原発立地しかり、不都合なデータは公表しません。その結果、辺野古基地の地盤がマヨネーズ状に緩く、建設不能であることが伏せられていましたし、多くの原発はまさに活断層の上に建てられています。

誤情報②「年間予算は 10 億円で、税金が投入されているのは日本だけ。会員は高額な報酬を受け取っている」(橋本・元大阪府知事、辛坊治郎キャスター)

全米科学アカデミーでは年間予算約 210 億のうち約 8 割が、英国王立協会では約 97 億のうち約 7 割弱が公金から支出されています。10億円の日本は最も低予算です。これについて大きな誤解が回っています。10 億円を会員が山分けしているかのように受け取られていますが、会員連携会員の手

当てが1億7千万円、旅費が1億4千万円ほどです(10月14日の NHK の報道)。会員は正会員も連携会員も同じ、1回1万9600円と旅費実費です。月給のようなものは一切支払われていません。(年間を通じて正会員の方が多く支払われているのは会議の回数が多いからに過ぎません。)会長は2万8800円、副会長は2万6400円です(実務がかなり多いため)。以上から判るように、会員に支払われているのはわずか3.1億円ほどに過ぎません。年度末には「予算がないので東京までの交通費は自費で調達してほしい」と連絡があるほど(伊藤公雄京都産業大学教授)です。まさに国のために自腹を切ってヴォランティア活動をしているのが実情です。(たかだか2万円弱の日当支給で、公務員呼ばわりされているわけですが、一方、Go to トラベルの事業者は日当4万円~7万円をもらっています。井上科学技術担当大臣は、給料とは別に大臣手当てが年額3千万円支給されています。)ちなみに、私は学会の会員でも関係者でも何でもありません。理非曲直を明らかにしているだけです。

公金を出す意味は、政府・国家が学術を支援していることを証明することにあります。つまり、日本が文明国であることを国内外に発信し、総理大臣の名や公金によって保証しているわけです。

誤情報③「会員は学会を辞めた後、日本学士院の会員になることができ、年金250万円がもらえるというルールがある」(平井文夫フジテレビ報道局解説委員室上席解説委員、自民党長島議員等) 二つの団体はまったく何の関係もなく、そのようなルールなど存在しません。声を大にして言うておきますが、そもそも学者(とりわけ人文系)はまったく儲かりません。好きだから、やっているだけで、給料は本代であらかた飛んでいきます。

誤情報④「中国の国家事業《千人計画》に参加している」(自民党甘利明税調会長、内閣官房参与高橋洋一嘉悦大学教授)。

そのような学術交流事業をそもそも行っていないと、学会自体が明言しています。

誤情報⑤「会員が自分の後任を指名することも可能な仕組みだ。」(菅首相)

実際は、新会員推薦の際には、性別・年齢・地域性などを配慮しており、政府の有識者会議自らが5年前の報告書で「構成に大幅な改善が見られる」と評価しています。首相自らが誤情報を流して、あたかも仲間内でポストを回し合っているような印象を国民に与えて、ネガティブ・キャンペーンを行なっています。首相自らが誇張や歪曲、誤情報を発信して「印象操作」を行なっていること自体が問題です。

誤情報⑥「学会の組織形態を見直す必要がある」(下村自民党政調会長)「学会が国の予算を投じる機関として本来発揮すべき役割を適切に果たし、国民に理解される存在であるべきだ」(井上科学技術担当大臣)

これを《論点のすり替え》¹と言い、もう一つの悪の指標です。任命拒否の説明拒否問題と学会の組織形態とは何の関係もありません。安倍政権下で政府の有識者会議は「現在の制度は学会に期待される機能に照らしてふさわしい。現在の制度を変える積極的な理由は見だしにくい」と太鼓判を押しています(2015年)。そもそも「国民に理解されていない」のは菅首相の支離滅裂な答弁の方であり、「説明をしない」菅首相こそが「国民に理解される存在であるべきだ」です。まさに国家が学会

¹ 国会審議のあらゆる場面で見出すことができます。感染症法改正案での罰則に関して、菅首相は「知事会からも罰則の創設を求める緊急提言をいただいています」と答えていますが、全国知事会は《罰則》こそ求めていましたが、《懲役刑》までは求めていません。それを、懲役刑を求めたのはあくまで全国知事会であって自分ではないと、《ごはん論法》で責任を知事会に転嫁し、(懲役刑は知事会から支持されていると)自己正当化しているのです。こうした言葉のすり替えによる言い逃れは、すべての答弁に見られるものです。私たち文学者は言葉を扱う仕事を生業にしていますから、毎日のように国会で繰り返される言葉のすり替えに不誠実以外の何ものも見出せ得ないのです。

議に税金から公金を出している以上、菅首相は税の管理者として任命拒否の説明を国民に行なう義務があるのです。朝日新聞も「改組ありきのまやかし」という社説を載せています。その一節を引用しておきましょう。

「学術会議の《独立》に踏み出すなどもってのほかだ。重要なのは活動に対する政府の介入からの独立である。独立に名を借り、同会議から公的資格を奪い、財政を不安定にして弱体化させるようなことをすれば、国際社会の笑いものになる。」 (2020年12月21日付朝刊)

なぜ任命拒否が学問の侵害に繋がるのか

首相は今回の問題は《学問の自由》とは関係ないと主張していますが、まず誤解④について二人の専門家に説明してもらいましょう。

「学術会議の会員を選ぶ基準は業績です。首相が任命を拒否したということは、これを否定したということになります。それが通れば、国立大学の人事や予算、税金で賄われる科学研究費助成事業も、時の政権の意向に左右され、研究に必要な立場や資金が、学術的な基準以外で決められることになってしまふ。まさに憲法23条が保障する、学問の自由の侵害です。」 (古川隆久日本大学教授)

「万国共通の学問の自由の意味は、政治家や役人などから検閲、制裁、報復を受けずに研究を行ない、その成果を発表できることにある。任命拒否は不利益を与える行為(犯罪や不正の存在を示唆し、6人への名誉棄損に当たる)であり、6人は政府から制裁を受けた格好にある。彼らは過去に政府の法案を批判したことで知られ、政府には制裁の動機もあった。政府は彼らの学問の自由を侵したのだ。さらに政府の意に沿わない研究活動が制裁、報復される恐れが現実化したことで、全ての者の学問の自由が侵されたとも言える。」 (豊永郁子早稲田大学教授、2020年11月19日『朝日新聞』朝刊15面)

「人と違う考えを持ち、迎合できないという理由だけで、悪人として追放刑に処されるなら、(中略)また何の悪事も行っていないのに、自由な気質の持ち主だからという理由だけで、人々が国賊扱いされて、死刑に処せられるなら、国家にとってこれ以上の破滅的な災厄があるであろうか。(中略)人々に自分で判断する自由が認められなくなればなるほど、その国は最も自然な状態から離れていき、従って、支配の仕方もますます暴力的になっていく。」 ~スピノザ『神学・政治論』第20章13-14~

1670年にすでにスピノザが記しているように、自由の侵害はまさに暴力の一形態なのです。

本題に入る前に、古典に示される人生の法則を確認しておきましょう。「無知と高慢は比例する(無知な人ほど傲慢になる。)」 「人間的な名誉をことのほか愛する者は、他人を支配することも切に熱望する傾向を持っている。」(アウグスティヌス『神の国』第5巻第19章)すなわち、権力欲の強い人ほど他人を支配しようとし、 「地獄篇」で示されるように、支配欲も悪の指標の一つです。

では、誤解①についてイタリア的な視点から見れば、どうなるでしょうか。

学術会議と国家の関係 「国からお金をもらっている以上、国に従うのは当たり前だ」(誤解①)

そもそも学術会議は何のためにあるかと言えば、国家の知恵袋として存在します。政治家は個々の専門領域に精通していません。このため、個々の専門領域で最も優れた業績を挙げている人たちが選ばれ、彼らが国家の諮問を受けて答申します。学術会議が推薦した6名の任命を拒否したということは、菅首相は自分の方が業績・見識・人格とも、この6名よりも高いとみなしていることとなります²。

² もし何らかの学問上の疑義がある場合はそれを明かして当該学会で議論させるべきであり、首相が任命

イタリアでは専門的な知識は政治家よりも学者の方が持っており、国家がその知恵を拝借させてもらうのだから、報酬を払うのは当たり前だと考えます。つまり、国家と専門家の関係は、患者と医者との関係に当たります。患者がより善き診療を求めて、医者に医療費を払うのと同じです。医者は患者を診断し、処方箋を書き、時に患者を厳しく説諭することもあります。このまま酒を飲み続ければ、血圧やコレステロール値が上がって深刻な事態になります、というように。医者が、患者の耳に痛いことを言うのは当たり前です。むしろ政権を批判することの方が重要な役目とされます。甘いことばかり言う医者は患者を殺してしまいます。喫煙がダメであれば、ダメと言うのが医者です。学者集団も同じです。従って、イタリアでは学者が政権を批判することはまったく問題となりません。それどころか、それをしなければ、その役目を果たしていないとみなされるでしょう。医学知識のない患者が医者を選別したり、希望通りの診断書を出さないと行って、注文を付けたりしません。イタリアではあくまで専門家が上で、国家は下に置かれます。なぜなら国家は助言を乞う立場だからです。そのため、日本で教えを乞う側が、なぜこうも威張っているのかイタリア人には理解できません。報酬を払うのは当たり前というのがイタリア人の感覚(常識)です。学問や学者に対するリスペクトの相違が、両者の違いの根底にあります。菅首相は、「治療費を払っているんだから、自分の言う通りに治療しろ、自分の言う通りの診断書を書かない医者は罷免する」と脅す患者と同じです。ここがイタリアのみならず、世界の常識から外れている点です。ヨーロッパのように多くの国が隣接している世界では独りよがりの主張は通用しません。菅首相の非論理が通用するのも、日本だからです。

学問と権力の関係

税金を投入するのだから、「時の権力(自民党)」に従うべきだというのは、大いなる錯誤です。まず《国のため》は《時の政権のため》ではありません。税金は、「時の権力」の財布ではありません。選挙で選ばれたら、税金は自分たちの好き勝手に使うことができるというのは、勘違いの中でも最も甚だしい勘違いです。税金は国民全員のためのものであり、「時の権力」の持ち物ではないからです。

また、選挙は独裁を生み出すシステムではありません。選挙で選ばれたら、何をやっても良い、何事においても国民は自分たちに従うべきだと考えること(選挙万能主義)は、独裁以外の何ものでもありません(これを《選挙独裁》と言います)。選挙で選ばれたということは、議場への許可が許されたというだけであり、議場で議論を交わす許可が与えられたに過ぎません。

「言葉が存在するのは、正しきものや不正なものを明らかにするためである。」

～アリストテレス『政治学』第1巻 1253a10～

言葉(ロゴス)は何が正しいかを見極めるために存在します。そのために議論は共通の論理(ロゴス)に従って交わされなければなりません。つまり、互いに $1+1=2$ を共通理解として初めて議論が成立します。しかし、菅首相のように $1+1=0$ であつたり、 $1+1=5$ であつたりすると、議論は成立しません。それはアリストテレスの言葉の定義を破壊する行為です。民主主義とは議論(ロゴス)主義であり、より多くのロゴス(論理)を有する案が最善のものとして採択されるシステムです。自民党の言い分は、自分は横綱だから、相撲を取らずに、優勝だと言っているようなものです。幕内では誰もが平等に対戦して、最も勝った力士が優勝します。横綱(与党)だから優勝できるわけではありません。議場も同じです。多数決=民主主義ではないからです³。

拒否という形で裁定すべきではありません。裁判なしに首相が有罪判決を下すようなものだからです。首相にそのような権限は法的に与えられていません。首相が裁判官の役を演じていることが、今回の問題の根幹をなしています。

³ もしそうであれば、今でも天動説が罷り通っています。絶対多数の人が地球の周りを太陽が回っていると信じて疑いませんでした。世の中には多数決では測れない真実があることを知っておく必要があります。

日本政府は「国の税金を使っている以上、国家公務員⁴の一員として、政権を批判してはならない」という考えですが、二重に間違っています。

第一に、学問は国家に従属する「しもべ」ではありません。ガリレオ・ガリレイの話が象徴的に表わしているように、地球が太陽の周りを回っているかどうかを、かつては教会が決めていました。現代のわれわれには、それがいかに滑稽かがよく判りますが、菅首相も同じことをしていることに、多くの人は気がついていません。何が正しく、何が間違っているかを決めるのは時の権力ではなく、学問自体なのです。今回、ここに政治が介入してきたので、各種学術団体は驚き、危機感を持ったわけです。

地球が太陽の周りを回っているかどうかを「時の権力」が決める。これが学問を停滞させてきました。西ローマ帝国が滅びた後、暗黒の中世が千年以上も続いた原因はここにあります。教会がいつも学問に注文を付け、あれは読んではいけない、議論してもいけないと手を突っ込んできたからです。これはガリレオ・ガリレイの時代(17世紀)まで続きます。しかし、その後、学問と大学が「時の権力」からの介入を排除していった結果、学問を飛躍的に発展させることができました。それまで千年かけてできなかったことが、わずか百年で達成されたのです。近代において学問が「時の権力」の呪縛から解放された結果、膨大な成果が得られました。今、私たちはその学問の恩恵の許に暮らしています。私たちがスマホをいじってられるのも、学問が政治や権力から独立した結果なのです。(時の権力が介入を続けていれば、今も江戸時代のような生活をしていただことでしょう。)地球が太陽の周りを回っているかどうかは、右翼思想とも左翼思想とも関係ありません。学問が仕えるのは国家や時の権力ではなく、唯一、真理だけです。学問が独立した結果、学問は長足の進歩を遂げて、その恩恵を私たちは今、こうやって享受しています。菅首相は任命拒否によって何が正しく何が間違っているかを政府と自民党が決めると高らかに国会で宣言しました。これは中世の時代に、江戸時代に回帰する宣言であり、つまり、日本は進歩を止めるという宣言です。多くの日本人がそれに賛同するのであれば、日本は世界の進歩から取り残され、真のガラパゴス化を遂げることでしょう。日本を愛する私たち(各種学術団体)は、そうした後退・先祖返りに反対しているのです。

第2に、公務員は政権の「しもべ」ではないことを確認しておきましょう。公務員は「全体の奉仕者」(憲法第15条)であると法的にも定められています。国民全体のために働く公務員は、政権が間違ったことをすれば、それを正すのがむしろ義務・責務です。従って、上位の命令が国民の利益に反する時、公務員が上位の命令に(公文書の改竄や捏造を拒否して)従わないことは極めて尊い行為です。第二次世界大戦の時、公務員や教員が時の政権に「ノー」と拒否できていれば(自由に発言でき、その自由が保障された社会であったならば)、悲惨な戦争を避けることができたでしょう。戦争を避け、国土の自然環境を護り、文化全体を発展させることこそ、真の愛国心ではないでしょうか。(しかし、現実には日本では戦争を避けようとした人、国土の自然を守ろうとした人、文化を発展させる人、公務員の本義を全うしようとした人を弾圧してきました。)

民主主義の根底にある法治主義の破壊

各種学術団体が危機感を募らせているのは、安倍政権から続く、法治主義の破壊です。法律に書いていないことを独自の解釈で勝手に行なってきました。例えば、学術会議法第11条では「科学の分野において優れた研究または業績がある会員をもって組織する」と定められているのに、首相はその規定にない「多様性」とか「大学間のバランスを取って」選考したと言っています。法律に書かれていない勝手な規定を自己都合で付け加えているのです。ここには3つの大きな錯誤があります。

①首相自らが法を守らない。

菅首相は事あるごとに個別の人事は「答えを差し控える」と答えますが、国家(すなわち国民)から給与をもらう国会議員にはこのような拒否権は存在しないことを知るべきです。なぜなら国民は白日の下

⁴学術会議会員は国家公務員特別職に当たりますが、歳費はありません。

にすべてを知る権利があるからです。国家公務員制度改革基本法には「政府全体を通じる人事管理について国民に説明する責任を負う体制を確立する」「官房長官はその責任を負う」と明記されています。総理大臣自らが法を守らない現在の日本は法治国家ではなくなっています。夜郎自大の自民党議員が法を無視して、国会を占拠している有様です。人事について国民へ説明責任を負っているにもかかわらず、なぜ菅首相が説明を拒否するのかと言えば、自分たち為政者が下々の国民にいちいち説明することなど(またそれによって国民から批判されることなど)あり得ないと信じているからに他なりません。家父長的に子供(国民)は黙って従っておればよいのだという意識が根底にあるからです。そのため、法という(家族)ルールも家父長には適用されないと考えています。菅首相の取ってつけた屁理屈は法(日本学術会議法)を逸脱しており、法治主義の破壊は民主主義の破壊そのものです。

「このことには通常の違法行為とは次元の異なる深刻さがある。法律の執行者である首相(自らが)法律を適切に執行していないことを意味するからだ。(同法では)首相が推薦通りに任命を行なうことを意味する。1983年にこの任命制が創設された際、中曽根康弘首相の国会答弁などで確認され、確定した解釈だ。ところが、今回政府は首相の裁量的な任命権を主張し、任命拒否を行なった。政府は、首相に《推薦通りに任命すべき義務があるとまでは言えない》という内閣法制局の言明を繰り返す。それは会長候補の犯罪や研究不正、選定過程での重大な不正が発覚した場合のことであって、首相が人事を自由に裁量できることを意味しない。さらに首相は会議の《総合的・俯瞰的活動》や《多様性》を確保する観点から任命拒否を判断したと述べるが、もとより首相には会議の人的構成を決める権限はない。」
(豊永郁子早稲田大学教授、同上)

②民主主義は「説明をすること」「情報を開示すること」を前提にして初めて成り立つシステムです。それ故、「説明しない、情報を開示しない」のは全体主義、独裁主義の始まりです。戦前のファシズムへの回帰を学術団体は危惧しています。暴力というのは何も軍隊や警察の武力だけではありません。説明しないことも国民に対する暴力の一種だということを国民全員に認識してもらいたいと思います⁵。

③古代ローマの偉大な遺産は世界の法の基礎を築いたことにあります。近代のどの国の法もローマ法を下敷きにしています。「法」による支配とは何か、簡単に説明しておきましょう。ローマにもかつては「法」がなく、神官が恣意的に掟を使い分けていました。このため、平民にはその明確な基準が判りませんでした。知っているのは神官だけなのです。これは今の日本と同じです。今回、6人の学者が任命を拒否されましたが、その理由を知っているのは菅首相(と杉田官房副長官)だけです。「神のお告げ」として判断を下していた古代の神官たちは、判断基準を見せず、ブラックボックス化すれば、権力が生じることをよく知っていました。今や菅首相も神のお告げとして任命を拒否したわけです。拒否された理由が解らないため、学術会議側も今度は何を基準にして推薦して良いのかも判りません。その基準は神(菅首相)のみぞ知るですから。古代ローマ時代、基準が判らないため、平民は抗議することもできませんでした。それで、掟を成文法として明文化するよう要求して、初めて「12表法」という法律が紀元前450年に成立しました。それまで神官の胸先三寸で物事は判定されていましたが、法の成文化で神官の権力は消失しました。法とはブラックボックス化を阻止し、闇をなくすためのものなのです。日本ではこれが骨抜きにされ、古代の神官政治に逆戻りしています。

ローマ人の偉大な点は、法によって恣意的な判断を排し、誰にも当てはまる共通のルールを築いたことにあります。そのルールの前では貴族も平民も同じです。権力者・特権階級だから、あるいは親の七光りで法が曲げられることはありません。全員に同じルールが適用されます。そしてこれまでの「本音」と「建て前」といった二重基準を一元化します。こうしてローマの法は闇を光で照らしていきま

⁵ ギリシャ語「ビアー」、ラテン語「ウィオレンティア」には「暴力」という意味と「強制」という意味があります。

す。今まで 2 重基準で光が当たらなかった部分に法によって光を当てて、まさに地中海の明るい陽光のように、闇を排除していったのです。ローマ人がやろうとしたことは、ブラックボックス化した「闇の政治」に法で打ち勝つ「光の政治」です。カエサルが紀元前 59 年に執政官に選ばれた時、最初に行なったのが情報公開であり、闇(ブラックボックス)の駆逐です。ローマ人は根気強く 400 年かけて闇を征服し、少しずつ闇に光を当てていきました(ローマは一日にして成らず、です)。安倍政権の「特定秘密保護法」以来、自民党はせっせと闇の拡大に努めています。悪は闇を好みます。闇は悪の住処であり、決して光の中に出てこようとはしません。今回も菅首相は闇で覆い尽くそうとしています。

そもそも自分を批判する者を封殺しようとするのは、度量ある人間のすることではありません。カエサルを見れば判るように、彼は部下たちに自分を好きなように批判・罵倒させました。それを聞いて、一番笑っていたのはカエサル自身です。だからこそ、部下たちは将軍カエサルのために命を惜しまず、戦ったのです⁶。人事権を使って恐怖の支配を行なう狭量な菅首相には、この人間の機微が解らないようです。菅政権が倒れるとき、政治生命を賭して守ってくれる人は誰一人いないでしょう。

日本では「批判」は「悪口」の同義とされますが、そうではありません。critique とは物事の真贋を見極めるという意味です。何が真実で、何が正義かその真偽を見極めるということです。批判なしにはいかなる弁証法的進歩も生じません。科学が西洋で発展を遂げたのも、絶えず他者によって学説が批判を受けたからです。判りやすく言えば、イエスマンしかいない会社や国は(戦時中がそうだったように)早晚滅びていきます⁷。

**教育の目的とは、現制度の賛美者を作ることではなく、
制度を批判し、改善する能力を養うことである。**

～ニコラ・ド・コンドルセ(フランスの社会学者・哲学者:1743-1794)～

国家と市民の関係 学者の分際で、首相に物申すとは何事だ。(誤解③)

日本では「国家」は国民の上に位置する絶対権力のように君臨しています。日本では国民は国家に従うものとされてきました。その結果、日本の教育は《市民》の育成ではなく、権力に従順な《臣民(しもべ)》を育成してきました⁸。しかし、ラテン語では、すなわち、古代ローマでは「国家」は res publica(レス・プブリカ)と言い、「みんなのもの」という意味です。権威主義的な意味はまったくありません。政治とは「みんなのために omnibus」行なう活動であり、特定の権力のためではないのです。

古代の偉大な建築物を比べてみて下さい。古代エジプトのファラオは巨大なピラミッドを建て、秦の始皇帝は巨大な始皇帝陵・兵馬俑を作りました。しかし、これは市民生活に何か役に立つでしょうか。一方、ローマ人が行なったのは世界最大の上・下水道の建設⁹であり、高速道路網の構築でした。ピラミッドも兵馬俑も庶民には何の役にも立ちませんが、上水道や下水道、道路は万人の役に立ちます。しかも、すべて無料で、誰でも使えます(外国人も奴隷も問いません)。このため、ローマの建築物にはた

⁶ カリスマ性(人間的吸引力)のない政治家は、人事で部下を従わせようとします。人心を掌握する力を欠いているため、人事を使った権力で恐怖によって人を従わせようとします。

⁷ 「(ワンマン社長だった)私が大きな決断を(自分だけで)下し、その結果は誤りでした。社内で十分な議論もなく、反論もありませんでした。だから、それからは《反論を育てる》ことに注力するようになったのです。」(リード・ヘイスティングス・米ネットフリックス創業者・共同最高経営責任者、『朝日新聞』2020 年 11 月 17 日付から引用)

⁸ 日本の不合理な校則がまさにそれです。イタリアには日本のような校則はありません。日本では「下着は白」「ヘアピンは細くなくてはならない」「三つ編みにする」「マフラー禁止」などなど無数の理不尽な校則が全国に溢れています。規制の目的と手段に合理的関係がなくとも、権力には盲目的に従うよう若い時から躰けて疑問を抱かないようにさせています。子供には人権など要らないと言っているようなものです。子供たちは人権が尊重される経験をしていないため、いじめも横行します。他者の人権に無頓着なのです。

⁹ ローマの住民の場合、1 人当たり 1 日約千リットのミネラルウォーターが無償で供給されていました。

いて「公共の publicus」という形容詞が付きます。これが意味するところは、「誰であれ(外国人も奴隷も)」、「ただで」利用できるということです。イタリアでは「国家」とは「みんなのために活動する機関・装置」なのです(このためイタリアでは医療費・教育費は無料です¹⁰)。

日本では《国家のため》には言論の自由が制限されても仕方ないと考えます。しかし、イタリアでは古来、自由度と幸福度は比例すると考えます。

「われわれ全員が自由であるというこの原則こそ、神が人間性に賦与した最高の贈物である。われわれは自由を通してこそ人間として幸福になるからであり、自由によってこそわれわれは神々のように至福に達するからである。もしかくの如くであるとすれば、人類がこの原理を十全に活用するとき、人類は最もよく幸福を有することになる。」
～ダンテ(1265-1321)『帝政論』第1巻12章～

そもそも政府は市民の自由を守るために存在します。イタリアでは大学は基本的に国立大学ですが、国からお金をもらっているからと言って、国立大学の教員や学生・職員が「時の権力(政府や与党)」に従わなければならない恩義は一切ありません。なぜなら国の役目は彼らの自由を保障することであり、国民の教育の権利を保障することだからです。お金を出すのは当たり前です。それが国家としての義務だからであり、教育を受ける権利を国民は有しているからです。しかし、日本ではお金を国が出すのだから、国(時の権力・政府・与党)の言うことを聞けとなります。おカネを出すのは国家の義務であって、決して恩恵ではありません。そもそもその原資は税金であり、国民のものです。なのに、それを国民に施してやるというのは実に傲慢な態度です。国家や政府は単なる管理者に過ぎず、所有者ではありません。時の政府が勝手にできるお金ではないのです。菅首相は、妻や子に対して「誰のお陰で食べていられると思っているんだ」と言って、自分に絶対服従を命じる封建時代の家父長そっくりです。挙句の果てには「俺様の言うことが聞けないなら、家から出ていけ!」¹¹とちゃが台返しします。イタリアでは父親の役目は妻や子の自由を身を挺して守ってやることです。国家は全力を傾けて、市民のこの自由を守らなければなりません。国や政府は、市民の自由や権利を守るための装置・機関であり、あくまでも市民が国家の上に位置します(これが民主主義というものです)。

「国とは、実は、自由のために存在するのである。」
～スピノザ『神学・政治論』第20章6¹²～

日本のように国家や政府が市民の上に位置してその自由を奪うことはありません。(このため、イタリアでは高校生も学校でストライキを行なって、学校と交渉を行なうことがあります。高校生のストライキの権利を誰も奪うことはできません。学校側も学生の正当な権利と認めています。)このように、市民の言論の自由や権利を、身を挺して護る役目をするのが政府や国家なのです。

古代ローマには護民官という制度が紀元前494年に創設されました。あらゆる議決に対して拒否権

¹⁰ 4世紀にはローマ市内は14の地区に《公共医師 archiatri populares》がそれぞれ置かれ、無料で区民の診療に当たっていました。国家は「みんなのためのもの」(国民を守るためのもの)だからです。イタリアの大学は、授業料は無料ではありませんが、年間、10万円程度です。

¹¹ 毎日新聞の取材で自民党の下村政調会長はノーベル賞学者を含む学術会議の提言能力に疑問を示しつつ「軍事研究否定なら、行政機関から外れるべき」(11月7日付朝刊6面)と答えています。下村政調会長は、学術会議のどのメンバーよりも優れた能力の持ち主だと自己評価しているようです。11月26日には井上信治科学技術担当相は学術会議の在り方を「国の機関からの切り離しも含めて検討すべき」と梶田会長に要請しました。任命除外の理由の説明もなく、論点をずらして組織ごと潰すようです。静かなファシズムが現在進行していることに気づく必要があります。

¹² 吉田量彦訳、光文社古典新訳文庫、305頁参照。

を発動できる護民官は、権力から平民(とりわけ弱者¹³)の権利を守るための公職で、国家の要職でした。国自らが、権力から平民を守るための官職を用意しているのです。なぜなら国家の役目は何としてでも市民の自由と権利を保障することにあるからです。これが、自民党の政治家にはどうしても理解できない点です。市民が絶対に嫌だと思えば、元老院の決議であれ、執政官の命令であれ、護民官は拒否権を発動して無効にできました。沖縄の人々が辺野古の米軍新基地建設にいくら反対しても、自民党は馬耳東風ですが、護民官がいれば、即、止めることができます。市民こそが主役であり、政治家は黒子として市民のための《しもべ》となって働くのが民主主義です。この主従の転倒こそが、日本の民主主義を阻むものです。イエスは弟子たちに繰り返す、こう語っています。

「あなた方の間で偉くなりたいと思う者は《仕える者》となり、頭(から)になりたいと思う者はすべての人々の《僕(しもべ)》とならなければならない。人の子(私)がこの世に来たのも、仕えられるためではない。仕えるためにやって来たのである。」 ~『マルコ福音書』10:44-45~

「(彼ら偽善者は)宴会の上座やシナゴグの上席を好み、広場で挨拶されることや人々から《先生》と呼ばれることを喜ぶ。しかし、あなた方は《先生》と呼ばれてはならない。(中略)あなたがたのうちで最も偉い人は、皆に《仕える者 minister¹⁴》となりなさい。」 ~『マタイ福音書』23:11-12~

このように現代の問題を考える時に古代ローマの事例は今もって参考になります。古代研究は黴臭い骨董趣味ではありません。学問は私たちに進むべき道を指し示してくれる強力な思考の武器なのです。

プラトーンは「人類最大の病は無知である」(『法律』III,691C-D)と言いましたが、これは私たちに課された永遠のテーマです。この無知¹⁵から脱却するため、常に、ジャーナリズムと学問は緊密に連携を取って、無知の克服に努めなければなりません。無知(フェイクニュース)はコロナウイルスよりも速く広く感染して精神と知性のパンデミックを惹き起こすからです。

【注意書き】

イタリアを参考にして論じましたが、かく言うイタリアも紆余曲折を遂げてきました。元老院といえども、聖人集団ではありませんから、搾取を行なって蓄財に励む者もいました。ローマの共和政の成果は帝政期に失われ、カリグラやネローのような暴君も生み出してきました。また中世には暗黒時代を経験します。近代ではファシズムに侵され、現代ではポピュリズムに悩まされ、何度も理念に反したことをしてきています。これまで理想の国家は存在したことはありません。皆がその途上にあるのです。進歩は右肩上がりの直線ではありません。一歩進んでは2歩下がり、2歩下がっては5歩進みます。いわば螺旋状に進歩していきます。今回、日本人に参考になるイタリアの考え方を紹介しました。これは、逆に言えば、イタリア人に参考になる日本の考え方もあるということです。このため、イタリア人も日本のことを研究しています(イタリアには「日本学会」があります)。相互に学ぶことで、互いを高め合うことができます。それぞれの国の問題点は異なります。イタリアではスリに悩まされることはありますが、日本のように痴漢や盗撮・下着泥棒に悩まされることはありません。各国はそれぞれ異なる悩みを抱えています(収賄などは共通の悩みですが)。互いに智慧を拝借し合って補い合うことこそが重要なのです。

¹³現代でもイタリアでは《弱い者いじめ》は嫌われます。イタリア語には「いじめ」という言葉がなく、わざわざ英語から借用しているほどです。市民としてクラスの誰1人としていじめられることがあってはならないからです。それは人間性の毀損であり、イタリアの教員は絶対に《いじめ》を許しません。

¹⁴「大臣」の語源です。原義は「小さき者(下僕)」ですが、日本人はこれを反対に「大臣」と訳しました。

¹⁵無知にもいろいろありますが、プラトーンは「知らないのに知っていると思っている無知」、「自分自身を知らない無知」、「政治についての無知」(私はこれを《三大無知》と呼んでいます)をとりわけ問題にしていました。学問は無知から脱却する最も頼りになる手段なのです。

誰もが自分の国を少しでも良い国にしようと願っているのですから。

*ジャーナリズムの語源(付録)

紀元前 59 年にカエサルは元老院議員の権力を削ぐために情報の公開を始めました。議場には 40 人の速記者¹⁶が議事録を作成していましたが、それを清書させて議事録を公開しました。そして日々「国民日報^{アクタ デイウルナ ポプリー} acta diurna populi」で報告させました。これが世界初の新聞(無料)です。元老院はこれによってその権力の源泉の一つである《秘密性のヴェール》(ブラックボックス)を剥ぎ取られました。この時、用いられた単語 diurna(日々の diurnalis→日刊)がイタリア語の giornale、フランス語・英語の journal になります。ここから判るように「ジャーナリズム」は権力の監視を第一義とします。

日本では不都合な記録が残らないよう会議は非公開で、議事録も残しません。議事録を取っても改竄・破棄されます。これでは民主主義の土台である情報公開は成り立ちません。一方、イタリアでは 1301 年 6 月 19 日に行なわれたフィレンツェ政府の会議(「百人委員会」)の議事録を読むことができます。そこには若きダンテが(まだ『神曲』を書く遙か昔、われわれが知る「ダンテ」になる前)一市民としていかなる発言をしたかが記録されています。¹⁷。こうした伝統は今も残り、イタリアの学校では教員会議に生徒の代表も参加します。口頭試験も公開です。日本がイタリアから学ぶことはまだまだあります。

(文責:藤谷道夫)

¹⁶ 速記術もローマ人の発明です。元首政後期には速記の専門学校さえありました。この記録の技術がローマの文化を今に伝える基礎となっているのです。このように文化にはそれを支える技術が必要です。

¹⁷ Francesco Senatore, *Medioevo: istruzione per l'uso*, Mondadori, 2008, pp. 115-127.